

ラダックのニンマ派寺院タクトク寺のツェチュの式次第

調査および式次第作成：木村理子

調査日：2010年7月19日（月）～21日（水）

調査場所：ラダック（シャクティ）ニンマ派寺院タクトク寺

ツェチュの日：毎年チベット暦6月10日を中日にした三日間

開催時間：午前10時頃～午後5時半頃

開催場所：タクトク寺忿怒尊祀堂前庭

【タクトク寺のツェチュ】

第一日目（チベット暦6月9日）：〈グル・ツェンゲ〉のリハーサル

第二日目（チベット暦6月10日）：〈グル・ツェンゲ〉

第三日目（チベット暦6月11日）：〈忿怒尊修法のチャム〉

※〈グル・ツェンゲ〉とは、ニンマ派開祖バドマサンバヴァの供養会で修される、「バドマサンバヴァとその八変化相の来迎図」のマンダラを顕現したチャムである。

第一日目：2010年7月19日（2010年はチベット暦6月8日に実施）

※ツェチュの三日間、チャムを修する40名の僧侶全員、堂内にて、夜通し読経を行なう。

読経の後、前庭にて、ツェチュの準備を始める。

16：27 衣装なし、仮面なしの状態で、〈グル・ツェンゲ〉のリハーサルを行う。

18：03 リハーサル終了。



第二日目：2010年7月20日〈グル・ツェンゲ〉

（2010年はチベット暦において6月10日が欠日の年なので、チベット暦6月9日に実施）

※直前まで、堂内で、〈グル・ツェンゲ〉を勧請するための観想と読経が行われる。

【午前の部（10：00～13：00）】

10：00 トルマ（供物）を広場中央の柱の台上に運び入れる。

10：03 聖水と燈明の準備を行う。

10：05 ギン八神に捧げる供物〈キングドゥル kingdul〉を広場中央の柱の台上に運び入れる。

10：50 銅鑼が鳴る。

11：03 開始のアナウンスが入り、太鼓を持った僧侶達が登場する。



11:08 ドウンチェン（大ホルン）が鳴る。

1. 僧侶達によるセテン（楽隊による清めのお練り）

11:10 先頭に白いカター（献布）と大線香、続いて、楽器、トルマ（供物）、水差し、法具を持った僧侶達が次々に一列になって登場する。[線香一名、香壺二名、法螺貝二名、ガンリン（チャルメラ）二名、幡四名、太鼓一名、シンバル一名、太鼓一名、シンバル三名、太鼓一名、シンバル一名、太鼓一名、銅鑼一名の順に登場する]



11:16 広場に登場した僧侶達全員による読経が始まる。僧侶一名、マイクを持って読経を行う。ドウンチェン（大ホルン）が楽隊の列に加わる。

11:20 読経の合間に金剛鈴が鳴り、僧侶達全員で、バドマサンバヴァのマントラ（真言）が唱えられる。



11:23 水さしが中央に置かれる。

11:26 チャムバン（秘儀を司る黒帽咒師の最高位）が登場する。[持物：左手：金剛鈴、右手金剛鉗]
僧侶達全員で円周に回る、二重円になる。



11:28 二人一組で順に退場するが、大線香を持った僧侶は堂扉脇に立ったままである。

11:33 チャムバンが退場する。

11:34 ドウンチェン（大ホルン）二本が運び込まれる。

11:40 トルマ（供物）が運び込まれる。僧侶、ニンマ派のツェチュおよびドルジェ・ダク寺に関する解説をラダック語で行う。



11:45 僧侶による解説が終了する。

11:46 大線香とドウンチェンとガンリン（チャルメラ）を持った僧侶達が登場する。

11:48 座主タクルン・リンポチェの御影が玉座に安置され、ニンマ派の高僧（瑜伽行者）が登場する。

11:50 蒼い翁、緑の童子、カター（献布）

を高僧（瑜伽行者）に捧げ、拝礼する。蒼い翁、緑の童子は観衆の前を練り歩き、地面に座り、ふざけ合う。

11:53 蒼い翁、緑の童子が退場する。

11:53 香壺を持った僧侶、高僧の前に立つ。速いテンポでシンバルが鳴る。続いて、ドウンチェンが鳴る。堂



扉が閉まる。

11:56 堂扉が開き、香とチャルメラを持った僧侶二名が登場する。

2. 馬頭金剛とその眷属 (9名) (計 10名)

※「中有」の境界に入ったことを示すチャムである。(mTsam-gChod-kyi sKu`Chams)

11:58 赤面頭上に白い五蘊(髑髏)と緑色の小さな馬頭を付けた馬頭金剛(Padma Hemka [Hayagriva] ハヤグリーヴァ)が登場する。

※この間、蒼翁面と緑童子面の二名の道化役が観客の前を練り歩き、カタール(献布)を観客の首に掛けて回り、一年の福を授け、お布施を徴収して回る。



12:00 馬頭金剛の眷属(九尊)が登場する。※二尊一組になって順に登場し、計八尊登場後、最後尾の一尊が登場する。馬頭金剛を先頭に一重円になり、チャムを執り行う。[持物:右手:プルブ(金剛槌)、左手:ガバル(髑髏杯)]僧侶が馬頭金剛から順に各尊に清めの草を手渡していき、馬頭金剛とその眷属九尊は右手で草を受け取り、プルブ(金剛槌)とともに右手に持つ。僧侶は孔雀の羽根で聖



水を撒き、広場中央の柱台の周りを清める。全員でチャムを行いながら、草を地面に投げ捨てて空間を清める。続いて、馬頭金剛が一重円の中央に入り、チャムを行う。その後、九眷属は二重円になり、再び一重円になった後、馬頭金剛は、九眷属の列の先頭に戻る。

12:22 馬頭金剛を先頭に堂内へと退場し始める。

12:25 眷属は二尊ずつ退場し、最後尾の一尊の退場をもって、馬頭金剛のチャムが終了する。

3. ギン(8名)

12:27 ギンに関する解説のアナウンスが入る。

※この間、寺院事務局長が観客に飲料を配って回る。

[座席は有料、指定席]



12:30 三角旗を付けた黄・赤・緑・青・赤・黄・赤・青・黄色の仮面のギン八神が一



列になって太鼓を手に持ち、走りながら登場する。四神が堂内から登場し、八神が堂外左側(東の方角)から登場する。※サムイェー寺建立の際にグル・リンポチェが

執り行つたとされる悪魔退治の鼓舞に由来するチャムである。

12：32 ギン八神、登場してきた方角へと一旦退場する。

12：33 ギン八神、再登場し、二列で向かい合い、再び、一重円になる。※この間、蒼翁と緑童子が観客の前を練り歩き、観客にカター（献布）を掛け、一年の福を受け、お布施を徴収して回る。

12：45 ギン八神、一列になって堂内へと退場する。

4. **ダキーニー**（額に白い目が付いた黄金の仮面であり、口元、両目、額中央の三目左右部分が空いた儼の方相氏のような仮面、10名）

12：48 黄金の仮面を被った十名のダキーニーが登場する。一重円になり、チャムを行い、東西南北に向かって立ち止つては、金剛鈴を鳴らす。

※十名の老僧達によるチャムである。[持物：右手：ダマル（髑髏鼓）、左手：金剛鈴]

13：00 十名のダキーニー、一列になり、東西南北に向かって立ち止つては、ダマル（髑髏鼓）と金剛鈴を鳴らす。※この時、道化役の蒼翁と緑童子は堂内に入る。

13：06 十名のダキーニー、一列になって堂内へと退場する。続いて、大線香とガンリン（チャルメラ）を持った僧侶達が登場する。ガンリン（チャルメラ）の音が鳴り響く中、高僧（瑜伽行者）が退席する。※休憩を知らせるアナウンスが入る。



【午後の部（14：00～16：00）】

14：05 僧侶、ラダック語で解説を始める。バドマサンバヴァの伝承および〈グル・ツェンゲ〉に関する説明が行われる。

14：18 ドウンチェン（大ホルン）が鳴る。

14：20 シンバルの音で堂扉が開く。

14：23 大線香と白いカターを持った僧侶が先導役となり、僧侶二名、ガンリン（チャルメラ）を吹きながら登場する。

5. 〈グル・ツェンゲ〉

14：25 傘を持った従者の僧侶達が登場し、グル・リンポチェとその八変化相が登場する。

14：29 グル・リンポチェと八変化相が着席する。

6. ギン（5神）

14：29 ギン五神が登場し、グル・リンポチェとその八変化相の前で、悪魔退治のチャムを行う。[持物：右手：ダマル（髑髏鼓）、左手：金剛鈴]





14:33 ギン五神、退場する。

7. 打鼓の舞（持明呪者〔童子〕、5名）

14:34 太鼓を持った持明呪者五名が登場し、太鼓を叩きながら、チャムを行う。

14:36 先頭の一名が

堂内へと退場した後、四名でチャムを行う。その後、一名ずつ堂内へと退場していく。



8. 楽器を持った神々（4名、仮面有り）

14:40～14:42 僧侶によるラダック語での解説が入る。



14:42 琵琶を手にし

た白天女〔従者二童子（女）〕と黄色四面菩薩が登場する。※僧侶が神々にカター（献布）を手渡す。神々は、グル・ツェンゲ（グル・リンポチェとその八変化相）に拝礼し、カター（献布）を捧げ、胸元に結び付ける。僧侶達による読経が始まる。楽器を持った神々が、グル・ツェンゲの正面に一列に並んで立ち、舞を奉納する。



14:50 トルマ（供物）や果実を載せた皿を持った蒼い獣（牙をもった蒼色の獣面、山の神と思われる）と水差しを持った裸足のマタラ（橙色の鱈面、水の神と思われる）が登場し、グル・ツェンゲの正面に一列に並んで立ち、供物や聖水を捧げ、拝礼する。※ボン教に由来すると考えられている動物神の仮面である。※この時、修法を補佐する僧侶が広場南側に北向きで坐しているニンマ派高僧（瑜伽行者）に深々と拝礼する。

者）に深々と拝礼する。

14:53 蒼翁と緑童子が再登場し、観客の前を練り歩き、お布施を徴収する。この間、グル・リンポチェの傘を持っていた緑馬面と蒼翁面の童子が左側から順にグル・ツェンゲを団扇で仰いで回り、八変化相のチャムが終わるまで仰ぎ続ける。四神はグル・ツェンゲの前でチャムを行う。その間、僧侶による読経は続き、読経の合間に、シンバルが鳴る。

15:05 楽器を持った四神が堂内へと退場する。

9. 八変化相のチャム

15:11 八変化相が順に一人ずつ、立ち上がり、チャムを行う。

グル・パドマ・ジュナス Guru Padmajungne [持物：右手：金剛鉈、左手：金剛鈴]

広場中央の柱を中心にして、時計周りにチャムを行う。

15：12 バドマ・ジュナスが着席し、続いて、グル・バドマサンバヴァが立ち上がる。

15：12 グル・バドマサンバヴァ Guru Padmasambhava [持物：右手：鉢 左手：持物なし] 同様に、広場中央の柱を中心にして、時計周りにチャムを行った後、着席する。続いて、次の八変化相が立ち上がり、チャムを執り行う。以下、同様。

15：18 グル・ログダ・チョグ・シヨド Guru Lodhen Chogsed [持物：右手：ダマル（髑髏鼓）、左手：花]

15：20 グル・バドマ・ギャルポ（ペマ・ギャルポ） Guru Padmaraja（Pema Gyalpo）
[持物：右手：ダマル（髑髏鼓）、左手：鏡]



15：22 グル・ニマ・オゼル Guru Nyima Odzer [持物：右手：縄、左手：棒]

15：26 グル・サキヤ・センゲ Guru Shakya Senge [持物：右手：金剛鉈、左手：黒鉢]

15：29 ドウンチェン（大ホルン）が鳴る。

15：30 グル・センゲ・ダド（忿怒尊） Guru Senge Dradrog [持物：右手：五色布で編んだ縄付きプルブ（金剛槨）、左手：五色布で編んだ縄付きオチル（金剛鉈）]

男女（ヤブユム）両尊一対になってチャムを行うため、センゲ・ダドが立ち上がると、明妃（ユム）が登場し、時計回りに一列になってチャムを執り行う。

15：32 センゲ・ダド（忿怒尊）が着席すると、明妃はグル・リンポチェの前でチャムを執り行ってから、堂内へと退場する。

15：34 ドウンチェン（大ホルン）が鳴る

15：35 グル・ドルジ・ドロ（忿怒尊） Guru Dorje Droloe が立ち上がる。[持物：右手：青布とプルブ（金剛槨）、左手：五色布で編んだ縄付きオチル（金剛鉈）] ※翌日のトゥンガムと同じ仮面であるが、ドルジ・ドロは腰に虎皮を巻いている。

15：36 ドルジ・ドロの明妃が堂内から登場する。男女両尊一対でチャムを執り行う。

15：40 ドルジ・ドロが着席する。ドルジ・ドロの明妃が一人でチャムを執り行う。

15：41 ドウンチェン（大ホルン）が鳴る

15：42 ドルジ・ドロの明妃、退場する。シンバルとドウンチェンが鳴り、読経が始まる。

15：43 ドルジ・ドロが立ち上がり、チャムを行い、バトマ・ジュナスが続いて立ち上がり、八変化相がドルジ・ドロを先頭に、チャムを執り行ったのと逆順に立ち上がり、一列になった後、グル・リンポチェが立ち上がる。



※堂の入り口に大線香とガンリン（チャルメラ）を持った僧侶達が登場する。ドルジ・ドロを先頭に柱を中心にして時計回りに一周、戻り半周、また戻り半周して、ドルジ・ドロだけ残して、グル・リンポチェを先頭に、七変化相が次々



に退場する。

15：49 ドルジ・ドロがチャムを行ながら、退場する。

※この時点で、観衆は散集し始める。

16：00 堂の入り口に香を持った僧侶が登場する。

10. カティン・チャン Kaatenchan (10名)

16：03 十名のカティン・チャンが登場する。

[持物：右手：金剛鈴、左手：ダマル（髑髏鼓）] ※読経が続く。

※カティン・チャンとはニンマ派の『チベットの死者の書（バルドゥ・トエドル）』の「中有」に現れる、死者を極楽に導く、光明を放つ（持明呪者）のことであると推測する。



16：14 ダマル（髑髏鼓）を叩きながら、順に退場する。

16：16 ガンリン（チャルメラ）の音が響きわたる中、座主の御影が堂内に戻される。

16：40 チャムの仮面や衣装の片づけが終り次第、堂内にて僧侶達全員による読経が始まる。※チャム修会で使用したトルマ（供物）を堂外に持ち出し、入口脇の黒色に塗られた窓枠傍に捨てる。

16：55 供物の果物や菓子も同じ場所に捨てる。堂内の祭壇両脇にて、僧侶が孔雀の羽根を用い、清めの聖水灌頂を三回執り行った後、堂内に米を撒き、清める。【第一日目終了】

第二日目：2010年7月20日（チベット暦6月11日に実施）

〈忿怒尊修法のチャム〉

【午前の部（10：00～13：00）】

10：03 チャムの広場の中央の柱の台上に黒色のトルマ



（供物）が運び込まれる。

10：10 白トルマ（供物）が運び込まれる。僧侶が聖水と燈明の準備をする。

10：13 供物の穀物類が運び込まれる。



10：27 ドウンチェン（大ホルン）二本が運び込まれる。その後、開始の合図であるドウンチェン（大ホルン）が二度鳴る。



1. 僧侶達によるセテン（楽隊による清めのお練り）

11：30 僧侶達が登場する。[大線香二名、ガンリン（チャルメラ）二名、法螺貝一名、幡四名、シンバルと太鼓の順で各三名ずつ、銅鑼一名]



11：31 ドウンチェン（大ホルン）の僧侶二名はドウンチェン（大ホルン）を畳み、楽隊内の法螺貝の僧侶の後ろに入る。シンバルが鳴る。

11：37 大線香とガンリン（チャルメラ）を持った僧侶二名、退場する。続いて、ドウンチェン（大ホルン）と幡をもった僧侶達が退場する。

その後、ドウンチェン（大ホルン）用の椅子を僧侶

が広場南側に設置する。

11：38 ドウンチェン（大ホルン）を持った二名の僧侶が再登場する。堂扉左右にガンリン（チャルメラ）を持った僧侶二名がそれぞれ向かい合って立つ。その間を二人一組で楽隊が一行になって順に堂内へと退場していく。その際、銅鑼、太鼓、シンバルは堂扉前で一旦立ち止まってから、堂内に入る。

11：42 座主タクルン・リンポチェの御影が堂内から運び出され、広場南の玉座の上に安置される。僧侶による解説が始まる。

11：45 『教訓抄』太孤父の記述を連想させるようなフラフラとした足取りの翁と童子が登場する。翁



は白いカター（献布）を首に掛け、緑童子は白いカター（献布）を手を持って、観衆の前を練り歩き、観衆にカターを掛け、一年の福を授け、お布施を徴収して回る。

2. ドゥルダ（戸林の主、骸骨）Ging-chen, King-ka-ra 2名 男女両尊



11：48 ドゥルダ（戸林の主、骸骨、ヤマ）男女両尊で登場する。

※手に棒を持ち、頭上に五蘊（髑髏）、両耳後ろに五色扇子を付けた髑髏の仮面を付けている。

※死後、転生するまでの四十九日間の「中有」の世界に入ったことを暗示する「神」。広場を一周した後、対になってチャムを行い、さらに、一周した後、堂前で立ち止まり、チャムを行う。その後、

チャムを行いながら、さらにもう一度、時計回りに一周する。

12：00 広場中央の柱台に置かれたトルマの傍を一周した後、堂前に戻る。

12：02 ドゥルダ2名、堂内へと退場する。僧侶、中央の柱台付近に聖水を撒き、清める。この間、老人と童子が再登場し、観客席の前で戯れる。

12：07 大線香を持った先導役の僧侶とガンリン（チャルメラ）を吹く僧侶二名が登場する。

3. シャナグ（黒帽呪師）[チャムバン含む計10名]

12：07 チャムバン（シャナグ（黒帽呪師）の第一格）が登場し、堂前で立ち止まり、チャムを行う。

[持物：右手：プルブ（金剛槌）、左手：ガバル（髑髏杯）]

12：08 清めの聖水入りの水差しを僧侶が広場中央の柱台に運び込む。



12：12～12：17 九名のシャナグ（黒帽呪師）が順に登場する。二名ずつ三組登場した後、三名のシャナグが一名ずつ登場する。

12：17 僧侶が聖水を配る準備を行う。チャムバンを先頭にシャナグ達は一重円になり、チャムを行いながら、時計回りに回る。

12：20 僧侶がシャナグのガバル（髑髏杯）に聖水を注いで回る。

シャナグ、一斉に聖水と穀物を地面に撒き、清めの儀式を行う。

12：21 再び、僧侶がシャナグのガバルに聖水を注いで回る。シャナグ、再度、聖水と穀



物で清めの儀式を行う。僧侶、孔雀の羽根で聖水を撒き、トルマ（供物）の周辺を清める。シャナグ、プルブを持つ右手にガバルを併せ持ち、聖水と穀物による清めの儀式を計六回繰り返す。僧侶は聖水の残りを水差しから大皿に戻す。

12:28 チャムバンが円の中心に入り、シャナグ達は小さな重円になりながら、チャムを行い、旋回する。

12:30 まず、チャムバンが堂前で立ち止まり、チャムを行ってから堂内へと退場していく。

12:32～34 シャナグ達は二名ずつ三組、続く、三名は一名ずつ退場する。※シャナグのチャムが終わると、寺院事務局より観衆に飲料が配られる。[座席有料、指定席制]

12:45 ドウンチェンの音が鳴り響き、続いて、太鼓が鳴る。先導役の大線香を持った僧侶一名、続いて、ガンリン（チャルメラ）を持った僧侶二名が登場する。

4. トウンガムとその眷属（9名）

※トウンガムが三角壇の中のバグリン（人形）を法具で刺し、障碍の魔を討つ修法を行う。

12:47 トウンガム（トプタン Stubstan）が登場する。堂扉前で一旦立ち止まり、チャムを行ってから、階段を降りる。※トウンガムはグル・リンポチェの護法神である。

※タクトク寺のトウンガムは、〈グル・ツェンゲ〉で登場したグル・リンポチェの八変化相のうちの忿怒尊ドルジ・ドロと同じ仮面である。



12:48 大線香を持った先導役の僧侶とガンリン（チャルメラ）を持った僧侶達が退場する。トウンガムがチャムを行う。

[持物：右手：プルブ（金剛槌）左手：金剛鉈] ※この間、道化役の翁と童子は観客席に座って見ている。その後、翁と童子は戯れながら、観客に一年の福を授けて回る。

12:53 トウンガムの九眷属が登場する。[持物：右手：プルブ（金剛槌）左手：ガバル（鬲髀杯）] トウンガムを先頭に眷属達は一列になり、広場を一周する。※読経が始まり、白いマスクをした僧侶が円の中心に立つ。トウンガムは広場中央の柱の西側、柱の陰に隠れる位置に座り、地面に置かれた木製の三角壇に入ったバグリン（大麦粉の練物で作った人形）を破壊する。トウンガムはプルブ（金剛





楸)で一回破壊するふりをし、プルブを大きく振りかざし、障碍の魔をバグリン(人形)に封じ込め、セレム(刀)でバグリン(人形)の腹部を一回突き刺し、刃先でかき回して、破壊する。トゥンガムがバグリンを破壊した後、僧侶が三角壇を手に持ちリヤングの破片をトゥンガムと九眷属が左手に持つガバル(鬲饗杯)の中に入れて回る。トゥンガムと九眷属はしばらくチャムを行った後、一斉にバグリンの破片を地面に撒き捨てる。その後、しばらく、トゥンガムと九眷属はチャムを行い、その後、トゥンガムを先頭に九眷属は順に二尊一組一列に

なり、最後尾の眷属は一尊で堂内に入る。

13:12 トゥンガムのチャムが終了する。

※僧侶、三角壇を堂内に戻す。堂内に入る直前、三角壇に残ったバグリンの破片を、堂扉前において、西の方向に投げ捨てる。

※広場では、トゥンガムと九眷属が地面に撒き捨てたバグリン(大麦粉の練物で作った人形)の破片を犬が食べて回る。



【午後の部 (13:40 ~ 17:00)】

5. ギン(2神)

13:40 突然、ラッパを吹きながら、虎皮裙姿のギンが勢いよく飛び跳ねながら観客席に乱入する。

※ギンはガンリン(ラッパ)の中に清めの〈粉(はったい粉)〉を詰めると、観客席に乱入し、観客に近づき至近距離から観客に向け、ガンリン(ラッパ)を吹き鳴らし、清めの〈粉〉を吹きかけて回る。

14:00 牙のある蒼い獣面を付けた山の神と思われる二神が道化役として登場し、観客の前を練り歩き、戯れる。



6. ゴンボと十従者 Pandanka Raodrantaka Mahakala (mGon-Po Ma-Ning)



14:11 大線香を持った先導役の僧侶とガンリン(チャルメラ)を持った僧侶二名が登場する。続いて、香壺を持ったアチャリ(阿闍梨 Acharia)二名、シャナグ・ンナグパ(黒帽呪師 Zanak Nygpa)二名、ゴンボ(大黒天 Gonpo)一名、托鉢僧(ゲロン Galong)二名、ラモ(ブーメット Boumeet)二名、虎皮裙姿の

ギン（シャンパ Shanpa）二名の順で登場する。

※ラモ（ブーメット）とギン（シャンパ）は、ニンマ派の聖人が瞑想で見た夢の世界の神々であると思われる。



14：14 ゴンボを中央にして、その両脇にアチャリ、シャナグ・ンナグパ（黒帽咒師）、托鉢僧（ゲロン）、ラモ（ブーメット）、ギン（シャンパ）の順で着席する。

14：16 僧侶が広場中央で聖水の準備を行う。堂前で童子二名が戯れている。



14：18 香壺を持った僧侶二名、広場を歩いて一周する。

14：19 シャナグ・ンナグパ（黒帽咒師）二名が立ち上がり、対になってチャムを行う。

14：20 シャナグ・ンナグパが着席すると、托鉢僧（ゲロン）二名が立ち上がり、対になってチャムを行い、再び着席す

る。[持物：右手：錫、左手：鉢] 14：25 托鉢僧が着席すると、ラモ（ブーメット）二名が立ち上がり、対になってチャムを行い、再び着席する。

14：27 ラモが着席すると、手にガンリン（ラッパ）を持った虎皮裙姿のギン二神が立ち上がり、対になってチャムを行い、再び着席する。

14：31 ドウンチェン（大ホルン）が鳴る。

7. ケファティカ（Keffa teaka 武将・2名）

14：32 白面三旗の武将姿のケファティカ（ゴンボの眷属）二神が登場する。堂前で立ち止まり、チャムを行う。続いて、刀を振りかざし、円周白線の



一歩外側に時計回りに旋回しながら、魔を祓うチャムを執り行う。

[持物：右手：刀、左手：盾]

※左腰には弓入りの虎皮ケース、右腰には五本の矢を携えている。

14：44 ケファティカ二神、退場する。

※儀礼を司る僧侶が慌てて堂内に駆け込む。

※この間、道化役の童子面二名が観客席を練り歩き、お布施を



集めて回る。ダウンチェン（大ホルン）が鳴る。

14：46 僧侶が木製の赤い三角壇を手に堂内から広場へと戻ってくる。広場中央の柱の西側、柱の陰に隠れるように置かれた四角い黄色の座布団（敷物）の上に三角壇が置かれる。三角壇の上には虎柄の三角巾が被せられ、その傍にはセレム（刀）が添えられる。シンバルが鳴る。

8. シワ（鹿神・ヤマ）



シワ（鹿神）が登場する。堂扉前で僧侶がシワ（鹿神）に清めの穀物を手渡す。穀物を受け取るや、堂扉前でシワは穀物を撒き、道を清める。シワは破魔矢（忿怒尊の白い三目が描かれた黒い羽根がついた木製の短い黒い破魔矢）を握っている。

※シワ（鹿神）はヤマータカの眷属（ヤマ）であり、バドマサンバヴァが鹿神に化けて鬼退治をしたという伝承からチャムに取り入れられたと言われて

いる。※タクトク寺シワは三角壇の中のバグリン（大麦粉の練物で作った人形）を法具のセレム（刀）で刺し、障碍の魔を討つ修法を執り行う。

シワはチャムを行いながら登場し、三角壇の前で立ち止り、三角壇を座布団の上から地面に移し、自らが座る座布団を破魔矢で清め、三角壇を覆っていた虎柄の三角巾を取り、バグリンを見て、驚いた仕草を見せ、飛び跳ねながら、チャムを行う。続いて、シワはチャムを行いながら、広場を半周回



り、印契を結びながら、三角壇のバグリンに悪魔を封じ込める。その際、シワは、左右に三回、前後に三回、計九回、両手で印契を結び、大きくのけぞりながら、首を振る。続いて、シワはセレム（刀）をバグリンに五回突き刺し、バグリンの両足、両腕、首を切断し、破壊する。破壊したバグリンの上でシワが真言

を唱えながら印契を結んでいると、突如、風が吹き始め、視界が曇るほどの砂嵐が起る。修法が終わると、シワは立ち上がり、広場を時計回りに回りながらチャムを行い、堂内へと退場する。

15：07 僧侶が三角壇と聖水壺を堂内に戻す。その途中、僧侶は、堂扉前で、三角壇の中のバグリン（人形）の破片を西の方角に投げ捨てる。そして、聖水壺の孔雀の羽根を手に取り、堂扉前に聖水を振り撒き、清めてから、三角壇を手を持って、堂内に入る。





15:08 シワ、退場する。

15:10 読経が続く。

※この時点で観客が散集し始める。

15:20 力強い太鼓の音とシンバルの音が響き渡る。

15:23 僧侶、広場中央の柱周辺を聖水で清める。

15:26 ゴンボの十従者のうちの香壺を持ったアチャリ二名が立ち上がり、チャムを行う。着席していたゴンボと八従者が次々に立ち上がる。先頭のゴンボに続いて、シャナグ二名、托鉢僧二名、ラモ二名、ギン二名が順にチャムを行う。その後、全員一列になって柱中心にして広場を一周し、室内

へと退場し始める。

15:31 ゴンボと十従者全員の退場をもって、〈忿怒尊修法のチャム〉が終了する。

9. 僧侶達によるセテン（楽隊による清めのお練り）



15:40 僧侶達によるセテンが始まる。先導役の大線香一名、香壺二名、法螺貝一名、ガンリン（チャルメラ）二名、幡三名、シンバル一名、太鼓一名、シンバル一名、太鼓一名、シンバル二名、金剛鈴一名、ガンリン（チャルメラ）一名の順に一列になって練り歩き、半周進んでは半周戻るを繰り返し、広場を三周して室内へと退場する。※この時、座主タクルン・リンポチェの御影が室内に戻される。

15:46 セテン終了後、広場では地元信者達が撤収作業を始める。その間、室内では僧侶全員で護法神（忿怒尊）を送る読経が執り行われる。読経後、前日と同様、チャム修会で使用したトルマ（供物）を堂外に捨てる。その後、祭壇に祀られて



いた宮殿形のトルマ（供物）の皿に入った、無病息災の御祈禱済みの粒状トルマ（大麦粉の練物で作った供物）がツェチュに参加した僧侶達と地元信者達に配られる。各自一粒ずつ手にとって食べる。



17:10 三日間にわたるツェチュが終了する。

写真：木村理子

調査協力者：タクトク寺僧侶チャムバン Padam Longyang 氏、Nawang Tsetan 氏